

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学 I	単位数	2
年組	1年1組	教科書(発行所)	高校数学 I (実教出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	ウォームアップ	四則計算の優先順位	○	○	
	1章 数と式	1 文字を使った式のきまり	○	○	
	1節 整式	2 整式 3 整式の加法・減法	○	○	
		4 整式の乗法 5 乗法公式による展開	○	○	
5		(中間考査)	○	○	
		6 因数分解	○	○	
		〃		○	○
	2節 実数	1 平方根とその計算	○	○	
6		〃		○	○
		2 実数		○	
		〃		○	
7		(期末考査)	○	○	
7	3節 方程式と不等式	1 1次方程式	○	○	
		2 不等式	○	○	
		3 不等式の性質	○	○	
8・9		4 1次不等式	○	○	
		〃	○	○	
9		5 連立不等式	○	○	
		6 不等式の利用	○	○	
		〃	○	○	
	2章 2次関数	1 1次関数とそのグラフ	○	○	
	1節 関数とグラフ	〃	○	○	
10		2 2次関数とそのグラフ	○		○
		〃	○		○
		〃	○		○
		〃	○		○
11		〃	○		○
		〃	○		○
		〃	○		○
12		(期末考査)	○	○	
12	2節 2次関数の値の変化	1 2次関数の最大値・最小値	○	○	
		〃	○	○	
		〃		○	○
1		2 2次関数のグラフと2次方程式	○	○	
		〃	○	○	
		〃		○	○
		3 2次関数のグラフと2次不等式	○	○	
		〃	○	○	
		〃	○	○	
2		〃		○	○
		(学年末考査)	○	○	
		問題演習		○	○
		〃		○	○
3		〃		○	○
【備考】					
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					・数学的活動を通して、論理的な思考力や演算能力を伸ばす。 ・与えられた問題に対して、適切な解法を選択して答えることができるようにする。 ・基本的な高校数学の知識を身に付け、今後の学習への基礎を固める。 授業の進め方 ・教科書の例題を用いた解説 ・教科書や副教材の練習問題を用いた演習 ・小テストによる既習事項の確認 ・言語的活動による応用問題への取り組みなど 学習の方法 ・授業で学習する内容を、あらかじめ教科書で予習してくる。 ・教科書や副教材で指示された課題を解いてくる。 評価の観点 ○知識・技能 ・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているか。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているか。 ○思考・判断・表現 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質やほかの事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けているか。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠のに基づいて判断したりしようとしているか。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしているか。 評価の方法 ・授業態度 ・発表や板書などの取り組み ・課題の提出 ・小テスト・定期考査 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学Ⅰ・数学A	単位数	5	
年組	1年2組		教科書(発行所)	新編 数学Ⅰ, 新編 数学A (数研出版)		
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点		項目
				知	思 態	
4	第1章 数と式	1 多項式の加法と減法 2 多項式の乗法 3 因数分解 4 実数 5 根号を含む式の計算 6 不等式の性質 7 1次不等式 (中間考査) 8 絶対値を含む方程式・不等式	1 多項式の加法と減法	○	○	学習の目標 ・数学的活動を通して、論理的思考力や演算能力を伸ばす。 ・与えられた問題に対して、適切な解法を選択して答えることができるようになる。 ・基礎的な高校数学の知識を身に付け、今後の学習への基礎を固める。
	第1節 式の計算		2 多項式の乗法	○	○	
5	第2節 実数		3 因数分解	○	○	
	第3節 1次不等式		4 実数 5 根号を含む式の計算	○	○	
6	第2章 集合と命題		6 不等式の性質 7 1次不等式	○	○	
	第3章 2次関数		(中間考査)	○	○	
7	第1節 2次関数のグラフ	8 絶対値を含む方程式・不等式	○	○		
	第2節 2次関数の値の変化	1 集合 2 命題と条件	○	○		
7		3 命題とその逆・裏・対偶 4 命題と証明	○	○		
		1 関数とグラフ	○	○		
7		2 2次関数のグラフ	○	○		
		3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定	○	○		
7		(期末考査)	○	○		
7	第3節 2次方程式と2次不等式	5 2次方程式	○	○	授業の進め方 ・教科書の例題を用いた解説 ・教科書や副教材の練習問題を用いた演習 ・小テストによる既習事項の確認 ・言語活動による応用問題への取り組みなど	
		6 2次関数のグラフとx軸の位置関係	○	○		
8・9	第4章 図形と計量	7 2次不等式	○	○	学習の方法 ・授業で学習する内容をあらかじめ教科書で予習してくる。 ・教科書や副教材で指示された課題を解いてくる。	
	第1節 三角比	1 三角比	○	○		
9	第2節 三角形への応用	2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張	○	○		
		4 正弦定理	○	○		
10	数学A	5 余弦定理	○	○		
	第1章 場合の数と確率	6 正弦定理と余弦定理の応用	○	○		
11	第1節 場合の数	7 三角形の面積	○	○		
	第2節 確率	8 空間図形への応用	○	○		
12		1 集合の要素の個数	○	○		
		2 場合の数	○	○		
12		3 順列	○	○		
		4 組合せ	○	○		
12		5 事象と確率	○	○		
		6 確率の基本性質	○	○		
12		7 独立な試行と確率 8 条件付き確率	○	○		
		(期末考査)	○	○		
12	数学Ⅰ	9 期待値	○	○	評価の観点 ○知識・技能 ・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているか。 ・事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているか。 ○思考・判断・表現 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質やほかの事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けているか。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとして、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしているか。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしているか。	
	第5章 データの分析	1 データの整理 2 データの代表値	○	○		
1		3 データの散らばりと四分位範囲	○	○		
		4 分散と標準偏差	○	○		
2	数学A	5 2つの変量の間の関係	○	○		
	第2章 図形の性質	6 仮説検定の考え方	○	○		
3	第1節 平面図形	1 三角形の辺の比	○	○		
	第2節 空間図形	2 三角形の外心・内心・重心	○	○		
3		3 チェバの定理・メネラウスの定理	○	○		
		4 円に内接する四角形	○	○		
3		(学年末考査)	○	○		
		5 円と直線 6 2つの円	○	○		
3		7 作図 8 直線と平面	○	○		
		9 空間図形と多面体	○	○		
【備考】						
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学Ⅰ・数学A	単位数	5	
年組	1年3組	教科書(発行所)	新編 数学Ⅰ, 新編 数学A(数研出版)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点 知 思 態			項目
4	数学Ⅰ	1 多項式の加法と減法	○	○	○	学習の目標
	第1章 数と式	2 多項式の乗法 3 因数分解	○	○		
	第1節 式の計算	4 実数 5 根号を含む式の計算	○	○		
	第2節 実数	6 不等式の性質 7 1次不等式	○	○		
5	第3節 1次不等式	8 絶対値記号を含む方程式・不等式	○	○	○	・数と式, 図形と計量, 2次関数, 図形の性質, 場合の数と確率及びデータの分析について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。
	第2章 集合と命題	(中間考査)	○	○		
	第3章 2次関数	1 集合 2 命題と条件	○	○		
	第1節 2次関数とグラフ	3 命題とその逆・裏・対偶 4 命題と照明	○	○		
6	第2節 2次関数の値の変化	1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ	○	○	○	授業の進め方
	第3節 2次方程式と2次不等式	3 2次関数の最大・最小	○	○		
		4 2次関数の決定	○	○		
		5 2次方程式	○	○		
7		(期末考査)	○	○	○	・教科書の例題を用いた解説 ・教科書や副教材の練習問題を用いた演習 ・小テストによる既習事項の確認 ・言語的活動による応用問題への取組など
7		6 2次関数のグラフとx軸の位置関係		○	○	学習の方法
8・9	第4章 図形と計量	7 2次不等式		○	○	
	第1節 三角比	〃	○	○	○	
	第2節 三角形への応用	1 三角比	○	○	○	
		2 三角比の相互関係		○	○	
10	数学A	3 三角比の拡張		○	○	評価の観点
	第1章 場合の数と確率	4 正弦定理 5 余弦定理	○	○	○	
	第1節 場合の数	6 正弦定理と余弦定理の応用		○	○	
	第2節 確率	7 三角形の面積	○	○	○	
11		8 空間図形への応用		○	○	○知識・技能 ・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているか。 ・事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているか。 ○思考・判断・表現 数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質やほかの事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けているか。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしているか。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようとしているか。
		1 集合の要素の個数 2 場合の数	○	○	○	
		3 順列		○	○	
		4 組合せ	○	○	○	
12		5 事象と確率 6 確率の基本性質	○	○	○	・授業態度 ・発表や板書等の取り組み ・課題の提出 ・小テスト・定期考査 また, 観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い, 学年末において5段階評価に総括する。
		7 独立な試行と確率	○	○	○	
		8 条件付き確率		○	○	
		9 期待値		○	○	
		(期末考査)	○	○	○	
12	数学Ⅰ	1 データの整理 2 データの代表値	○		○	評価の方法
1	第5章 データの分析	3 データの散らばりと四分位範囲	○	○	○	
	第2章 図形の性質	4 分散と標準偏差 5 2つの変量の間の関係	○	○		
	第1節 平面図形	6 仮説検定の考え方	○	○		
		1 三角形の辺の比		○		○
2		2 三角形の外心・内心・重心	○	○	○	
		3 チェバの定理・メネラウスの定理	○	○		
		4 円に内接する四角形	○	○		
		〃		○		○
3	第2節 空間図形	5 円と直線		○	○	・授業態度 ・発表や板書等の取り組み ・課題の提出 ・小テスト・定期考査 また, 観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い, 学年末において5段階評価に総括する。
		(学年末考査)	○	○	○	
		6 2つの円		○	○	
		7 作図	○	○	○	
		8 直線と平面 9 空間図形と多面体		○	○	
【備考】						
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学 I	単位数	2	
年組	2年1組		教科書(発行所)	高校数学 I (実教出版)		
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点 知 思 態		項目
4	3章 三角比 1節 三角比	1 三角形	○	○	○	学習の目標
		2 三角比	○	○		
		〃	○	○		
		〃	○	○		
5	〃	〃	○	○		
		〃	○	○		
		〃	○	○		
		〃	○	○		
6	2節 三角比の応用	(中間考査)	○	○		
		3 三角比の利用	○	○		
		4 三角比の相互関係	○	○		
		〃	○	○		
7	1 三角比の拡張	〃	○	○	授業の進め方	
		2 三角形の面積	○	○		
		〃	○	○		
		〃	○	○		
7		〃	(期末考査)	○	○	・教科書の例題を用いた解説 ・教科書や副教材の練習問題を用いた演習
7	4章 集合と論証 1節 集合と論証	3 正弦定理	○	○	○	学習の方法
〃		○	○			
〃		○	○			
〃		○	○			
8・9		4 余弦定理	○	○		
9		〃	○	○		
		〃	○	○		
		5 正弦定理と余弦定理の利用	○	○		
		〃	○	○		
10		〃	○	○		
		〃	○	○		
		〃	○	○		
	〃	○	○			
11	1 集合と要素	○	○	○	評価の観点	
	〃	○	○			
	2 命題	○	○			
	〃	○	○			
12	3 いろいろな証明法	○	○			
	〃	○	○			
	〃	○	○			
	(期末考査)	○	○			
12	5章 データの分析 1節 データの分析	1 統計とグラフ	○	○	○	評価の方法
1		2 度数分布表とヒストグラム	○	○		
		〃	○	○		
		3 代表値	○	○		
		〃	○	○		
2		4 データの散らばり	○	○		
		〃	○	○		
		5 外れ値	○	○		
		6 相関係数	○	○		
3		〃	○	○		
		〃	○	○		
		7 仮説検定の考え	○	○		
	問題演習	○	○			
〃	〃	○	○			
【備考】						また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4
年組	2年2組	教科書(発行所)	最新 数学Ⅱ(数研出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	第1章 式と証明 第1節 節式と計算	1 多項式の乗法と因数分解 2 二項定理 3 多項式の割り算 4 分数式の乗法・除法 5 分数式の加法・減法 6 恒等式 7 等式の証明	○		
5	第2節 等式・不等式の証明	(中間考査)	○	○	
6	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式 第2節 高次方程式 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	8 不等式の証明 9 相加平均と相乗平均 1 複素数 2 2次方程式の解と判別式 3 解と係数の関係 4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式の解法 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の平行と垂直	○	○	○
7		(期末考査)	○	○	
7	第2節 円 第3節 軌跡と領域	5 円の方程式 6 円と直線 7 軌跡 8 不等式の表す領域 9 連立不等式と領域	○	○	○
8・9	第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理	1 一般角 2 弧度法 3 三角関数 4 三角関数のグラフ 5 三角関数を含む方程式、不等式 6 加法定理 7 加法定理の応用 8 三角関数の合成 〃	○	○	○
9			○	○	○
10	第5章 指数関数と対数関数	1 指数法則 2 指数関数とそのグラフ 3 対数 4 対数の性質 5 対数関数とそのグラフ 6 常用対数 〃	○	○	○
11			○	○	○
12		(期末考査)	○	○	
12	第6章 微分法と積分法 第1節 微分法	1 平均変化率と微分係数 2 導関数 3 いろいろな関数の微分 4 接線 5 関数の増減 6 関数の極大・極小 7 関数の最大・最小 8 方程式・不等式への応用	○	○	○
1	第2節 積分法	9 不定積分 10 不定積分の計算 11 定積分 12 定積分の性質 13 面積 〃	○	○	○
2		(学年末考査)	○	○	
3	課題学習	いろいろな平均 線形計画法、弦の長さと言 速さと距離	○	○	○
【備考】			※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。		

項目
学習の目標
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。
授業の進め方
・教科書の例題を用いた解説 ・教科書や副教材の練習問題を用いた演習 ・小テストによる既習事項の確認 ・言語的活動による応用問題への取組など
学習の方法
・授業中に出された課題を解いてくる。 ・定期テストの訂正ノートを作成し、復習をする。
評価の観点
○知識・技能 ・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているか。 ・事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているか。 ○思考・判断・表現 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質やほかの事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けているか。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠のに基づいて判断したりしようとしているか。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしているか。
評価の方法
・学習活動への取り組み ・課題、提出物の状況、ノート、プリント ・定期考査 ・小テスト また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇高等学校

教科	数学	科目	数学Ⅱ・数学B	単位数	5
年組	2年3組文系		教科書(発行所)	新編 数学Ⅱ, 新編 数学B (数研出版)	
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点	
				知	思 態
4	数学Ⅱ 第1章 式と証明	1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理	○		
	第1節 式と計算	3 整式の割り算 4 分数式とその計算 5 恒等式	○	○	○
	第2節 等式・不等式の証明	6 等式の証明 7 不等式の証明	○	○	○
	第2章 複素数と方程式	1 複素数とその計算	○		
5	第1節 複素数と2次方程式の解	2 2次方程式の解 3 解と係数の関係	○	○	○
	第2節 高次方程式	(中間考査)	○	○	○
	第3章 図形と方程式	4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式	○		
	第1節 点と直線	1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式	○		
6	第2節 円	4 2直線の関係 5 円の方程式	○	○	○
	第3節 軌跡と領域	6 円と直線 7 2つの円 8 軌跡と方程式	○	○	○
	第4章 三角関数	9 不等式の表す領域	○		
7		1 角の拡張 2 三角関数	○	○	○
		(期末考査)	○	○	○
7	第1節 三角関数	3 三角関数のグラフ 4 三角関数の性質	○	○	○
	第2節 加法定理	5 三角関数を含む方程式, 不等式 6 加法定理	○		
8・9	数学B	7 加法定理の応用	○	○	○
	第1章 数列	1 数列と一般項 2 等差数列	○		
9	第1節 等差数列と等比数列	3 等差数列の和 4 等比数列	○	○	○
	第2節 いろいろな数列	5 等比数列の和	○	○	○
	第3節 漸化式と数学的帰納法	6 和の記号 Σ 7 階差数列	○	○	○
10		8 いろいろな数列の和	○		
	第5章 指数関数と対数関数	9 漸化式	○	○	○
	第1節 指数関数	10 数学的帰納法	○		
11	第2節 対数関数	1 指数の拡張 2 指数関数	○	○	○
	第6章 微分法と積分法	3 対数とその性質	○	○	○
12	第1節 微分係数と導関数	4 対数関数	○		
		5 常用対数	○	○	○
		1 微分係数 2 導関数とその計算	○	○	○
		3 接線の方程式	○	○	○
		(期末考査)	○	○	○
12	第2節 関数の値の変化	4 関数の増減と極大・極小		○	○
	第3節 積分法	5 関数の増減・グラフの応用	○	○	○
1		6 不定積分		○	○
	第2章 統計的な推測	7 定積分	○	○	○
	第1節 確率分布	8 定積分と面積	○		
2		1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値と分散	○	○	○
	第2節 統計的な推測	3 確率変数の和と積	○	○	○
3		4 二項分布	○		
		5 正規分布	○	○	○
		6 母集団と標本	○		
		(学年末考査)	○	○	○
		7 標本平均の分布	○	○	○
		8 推定	○		
		9 仮説検定	○	○	○
【備考】					また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇高等学校

教科	数学	科目	数学Ⅱ・B	単位数	6				
年組	2年3組理系		教科書(発行所)	新編 数学Ⅱ,新編 数学B (数研出版)					
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点		項目			
				知	思 態				
4	数学Ⅱ 第1章 式と証明	1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理	○			学習の目標			
	第1節 式と計算	3 整式の割り算 4 分数式とその計算 5 恒等式		○	○				
	第2節 等式・不等式の証明	6 等式の証明 7 不等式の証明		○	○				
	第2章 複素数と方程式	1 複素数とその計算	○						
5	第1節 複素数と2次方程式の解	2 2次方程式の解 3 解と係数の関係	○	○			授業の進め方		
		(中間考査)	○	○					
	第2節 高次方程式	4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式	○		○				
	第3章 図形と方程式	1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式	○						
6	第1節 点と直線	4 2直線の関係 5 円の方程式		○	○			評価の方法	
	第2節 円	6 円と直線 7 2つの円 8 軌跡と方程式		○	○				
	第3節 軌跡と領域	9 不等式の表す領域	○		○				
	第4章 三角関数	1 角の拡張 2 三角関数	○	○					
7		(期末考査)	○	○		・教科書の例題を用いた解説 ・教科書や副教材の練習問題を用いた演習 ・小テストによる既習事項の確認 ・言語的活動による応用問題への取組など			
7	第1節 三角関数	3 三角関数のグラフ 4 三角関数の性質	○		○	学習の方法			
	第2節 加法定理	5 三角関数を含む方程式, 不等式 6 加法定理		○	○				
		7 加法定理の応用	○		○				
	8・9	第5章 指数関数と対数関数	1 指数の拡張 2 指数関数		○		○		
9	第1節 指数関数	3 対数とその性質 4 対数関数	○		○		評価の観点		
	第2節 対数関数	5 常用対数	○	○					
	第6章 微分法と積分法	1 微分係数 2 導関数とその計算		○	○				
	第1節 微分係数と導関数	3 接線の方程式	○	○					
10	第2節 関数の値の変化	4 関数の増減と極大・極小	○	○				評価の方法	
		5 関数の増減・グラフの応用		○	○				
		6 不定積分		○	○				
		7 定積分	○	○					
11	数学B	8 定積分と面積		○	○	評価の方法			
	第1章 数列	1 数列と一般項 2 等差数列		○	○				
	第1節 等差数列と等比数列	3 等差数列の和 4 等比数列	○	○					
	第1節 等差数列と等比数列	5 等比数列の和	○	○					
12		(期末考査)	○	○			○知識・技能 ・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数値化したとき、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 ○思考力・判断力・表現力 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
12	第2節 いろいろな数列	6 和の記号Σ		○	○		評価の方法		
		7 階差数列		○	○				
		8 いろいろな数列の和	○		○				
	1	第3節 漸化式と数学的帰納法	9 漸化式		○			○	
2	第2章 統計的な推測	10 数学的帰納法	○	○				評価の方法	
	第1節 確率分布	1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値と分散	○	○					
		3 確率変数の和と積		○	○				
		4 二項分布	○		○				
3	第2節 統計的な推測	5 正規分布	○		○	評価の方法			
		6 母集団と標本	○	○					
		(学年末考査)	○	○					
		7 標本平均の分布	○	○					
3		8 推定	○		○		評価の方法		
		9 仮説検定		○	○				
									評価の方法
【備考】									
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。									

学習の目標

いろいろな式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分, 数列, 統計的な推測などについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現・処理する技能を身に付け, それらを活用する態度を育てる。

授業の進め方

・教科書の例題を用いた解説
・教科書や副教材の練習問題を用いた演習
・小テストによる既習事項の確認
・言語的活動による応用問題への取組など

学習の方法

・授業で学習する内容を, あらかじめ教科書で予習してくる。
・教科書や副教材で指示された課題を解いてくる。

評価の観点

○知識・技能
・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
・事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
○思考力・判断力・表現力
・数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
○主体的に学習に取り組む態度
・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価の方法

・授業態度
・発表や板書等の取組
・週末課題や長期休業中の課題の提出
・小テスト・定期考査
・授業ノートの提出
また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学A	単位数	2
年組	3年1組	教科書(発行所)	高校数学A(実教出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	1章 場合の数と確率	1 集合と要素	○		○
	1節 場合の数	2 集合と要素の個数	○		○
		3 場合の数	○		○
		4 順列	○		○
		〃	○		○
5		(中間考査)	○	○	
		5 組合せ	○		○
	2節 確率	1 事象と確率	○	○	
		2 いろいろな事象の確率		○	○
6		3 独立な試行と確率	○	○	
		4 反復試行とその確率	○		○
		5 条件つき確率 6 期待値	○		○
7		(期末考査)	○	○	
7	2章 図形の性質	1 三角形の角	○		○
	1節 三角形の性質	2 三角形と線分の比	○		○
		3 三角形の外心・内心・重心	○	○	
8・9		エクササイズ	○		○
	2節 円の性質	1 円周角	○		○
9		2 円と四角形	○	○	
		3 円の接線	○		○
		4 方べきの定理	○	○	
		5 2つの円	○	○	
		エクササイズ	○	○	
10	3節 作図	1 基本の作図	○		○
		2 いろいろな作図	○	○	
		3 三角形の外心・内心・重心の作図	○	○	
		エクササイズ	○	○	
11	4節 空間図形	1 空間における直線と平面	○	○	
		2 多面体	○		○
		問題演習	○	○	
12		(期末考査)	○	○	
12	3章 数学と人間の活動	1 数の歴史	○		○
	1節 数と人間	2 2進数とコンピュータ	○	○	
		3 整数の性質とユークリッドの互除法		○	○
1	2節 図形と人間	1 図形と人間 2 相似と測定	○		○
		3 座標の考え方		○	○
		(学年末考査)	○	○	
2					
3					
【備考】					
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

学習の目標

・場合の数と確率及び図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

授業の進め方

・教科書の例題を用いた解説
・教科書や副教材の練習問題を用いた演習
・小テストによる既習事項の確認
・言語的活動による応用問題への取組など

学習の方法

・授業で学習する内容を、あらかじめ教科書で予習してくる。
・教科書や副教材で指示された課題を解いてくる。

評価の観点

○知識・技能
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、よりよく問題を解決しているか。
○思考・判断・表現
事象を数学的に考察や表現をし、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることで、その分野における数学的な見方や考え方を身に付けているか。
○主体的に取り組む態度
数学の良さを認識し、数学的活動を通してその分野における考え方に関心を持ち、それらを事象の考察に活用して数学的な推論によって判断ができていくか。

評価の方法

・授業態度
・発表や板書などの取り組み
・課題の提出
・小テスト・定期考査
また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評価に総括する。

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学探究 I	単位数	3		
年組	3年2組		教科書(発行所)	数学探究 I (南宇和高校)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点				
			知	思	態		
4	関数とグラフ	1 方程式と不等式	○	○	○	学習の目標	
		〃	○	○	○		
		2 2次関数	○	○	○		
		〃	○	○	○		
		〃	○	○	○		
5		〃 (中間考査)	○	○	○		
		3 図形と計量	○	○	○		
		〃	○	○	○		
		〃	○	○	○		
6		4 データの分析	○	○	○		授業の進め方
		〃	○	○	○		
		〃	○	○	○		
7		〃 (期末考査)	○	○	○		
・前日に課題として問題を解かせておく。 ・生徒自身が解答を板書する。 ・自己の解答について、解説を行う。 ・質疑応答を行う。 ・説明不足の箇所や別解を教科担当者が補足説明する。							
7	確率と証明	1 場合の数と確率	○	○	○	学習の方法	
		〃	○	○	○		
		〃	○	○	○		
8・9		〃	○	○	○		
		〃	○	○	○	・問題集を活用する。 ・生徒自身が解答を板書、解説、質疑応答することにより、論理的思考力を身に付けさせるとともに、言語活動の充実を図る。 ・補足説明を必要とする場合や別解がある場合は、教科担当者が行い、知識や技能をより深めていく。	
9		〃	○	○	○		
		〃	○	○	○		
		〃	○	○	○		
		〃	○	○	○		
10		2 図形の性質	○	○	○		評価の観点
		〃	○	○	○		
		〃	○	○	○		
		〃	○	○	○		
11		〃	○	○	○		○知識・技能 ・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているか。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているか。 ○思考・判断・表現 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質やほかの事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けているか。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠のに基づいて判断したりしようとしているか。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしているか。
	〃	○	○	○			
	〃	○	○	○			
12	〃 (期末考査)	○	○	○			
○思考・判断・表現							
12		3 数学と人間の活動	○	○	○	評価の方法	
		〃	○	○	○		
		〃	○	○	○		
1		〃	○	○	○		
		〃	○	○	○	・授業態度 ・発表や板書などの取り組み ・課題の提出 ・小テスト・定期考査	
		〃	○	○	○		
		〃	○	○	○		
2		〃 (学年末考査)	○	○	○		
3							
【備考】					また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。		
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学探究 I	単位数	3
年組	3年3組文系		教科書(発行所)	数学探究 I (南宇和高校)	
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		項目
			知	思	態
4	関数とグラフ	1 方程式と不等式	○	○	学習の目標
		〃	○	○	
		2 2次関数	○	○	
		〃	○	○	
5		(中間考査)	○	○	
		〃	○	○	
		〃	○	○	
		〃	○	○	
6		3 図形と計量	○	○	
		〃	○	○	
		〃	○	○	
7		(期末考査)	○	○	授業の進め方
・前日に課題として問題を解かせておく。 ・生徒自身が解答を板書する。 ・自己の解答について、解説を行う。 ・質疑応答を行う。 ・説明不足の箇所や別解を教科担当者が補足説明する。					
7	確率と証明	3 図形と計量	○	○	学習の方法
		〃	○	○	
8・9		4 データの分析	○	○	
		〃	○	○	
		〃	○	○	
9		1 場合の数と確率	○	○	
		〃	○	○	
		〃	○	○	
		〃	○	○	
10		〃	○	○	
		〃	○	○	
		2 図形の性質	○	○	
11		〃	○	○	
		〃	○	○	
		〃	○	○	
12		(期末考査)	○	○	評価の観点
○知識・技能 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、よりよく問題を解決しているか。 ○思考・判断・表現 事象を数学的に考察や表現をし、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることで、その分野における数学的な見方や考え方を身に付けているか。					
12		2 図形の性質	○	○	○主体的に取り組む態度 数学の良さを認識し、数学的活動を通してその分野における考え方に興味を持ち、それらを事象の考察に活用して数学的な推論によって判断ができていくか。
		〃	○	○	
		〃	○	○	
1		3 数学と人間の活動	○	○	
		〃	○	○	
		〃	○	○	
2					
3					
評価の方法					
・授業態度 ・発表や板書などの取り組み ・課題の提出 ・小テスト・定期考査 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。					
【備考】					
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学探究Ⅱ・数学C	単位数	3
年組	3年3組文系		教科書(発行所)	数学探究Ⅱ(南宇和高校), 新編 数学C(数研出版)	
月	学習内容	学習の具体的な内容		評価の観点	項目
				知	思 能
4	数学探究Ⅱ/数学C 関数とグラフ/第1章 平面上のベクトル	1 式と証明/1 ベクトル 〃 /2 ベクトルの演算 〃 /3 ベクトルの成分 〃 /4 ベクトルの内積		○	○
5		2 複素数と方程式 /5 位置ベクトル (中間考査) 〃 /6 ベクトルの図形への応用 〃 /7 図形のベクトルによる表示		○	○
6	〃 /第2章 空間のベクトル	3 図形と方程式 /1 空間の点 2 空間のベクトル 〃 /3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 〃 /5 ベクトルの図形への応用 〃 /6 座標空間における図形		○	○
7		(期末考査)		○	○
7	数学探究Ⅱ 関数とグラフ	4 三角関数 〃 〃 〃		○	○
8・9		5 指数関数・対数関数 〃 〃 〃		○	○
9		6 微分法・積分法 〃 〃 〃		○	○
10		1 数列 〃 (期末考査)		○	○
11	数列と統計的な推測			○	○
12				○	○
12	数列と統計的な推測	1 数列 〃 2 統計的な推測 〃 〃 (学年末考査)		○	○
1				○	○
2				○	○
3				○	○
【備考】					
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学Ⅲ・数学C	単位数	3	
年組	3年3組理系	教科書(発行所)	新編 数学Ⅲ、新編 数学C(数研出版)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点 知 思 態			項目
4	数学C 第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形	1 ベクトル 2 ベクトルの演算 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 5 位置ベクトル 6 ベクトルの図形への応用 7 図形のベクトルによる表示	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	学習の目標 1・2年次で学習内容をもとに、さらに高度な内容を学習することにより、より強い興味・関心を持たせ、数学Ⅲ・Cにおける基礎・基本の定着を図る。また、問題演習を通して、論理的思考力や問題解決能力を向上させる。
	5	数学Ⅲ 第1章 関数 数学Ⅲ 第2章極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限	1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数 1 数列の極限 2 無限等比数列 3 無限級数 (中間考査) 4 関数の極限(1) 5 関数の極限(2) 6 三角関数の極限 7 関数の連続性	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	
6	数学C 第2章 空間のベクトル	1 空間の点 2 空間のベクトル 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 5 ベクトルの図形への応用 6 空間座標における図形 (期末考査)	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	
7			○	○	○	
7	数学C 第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標	1 放物線 2 楕円 3 双曲線 4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線 6 曲線の媒介変数表示 7 極座標と極方程式 8 コンピュータの利用	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	学習の方法 ・教科書の例、例題の解説を通して、確実に内容の理解を図るとともに、練習問題、補充問題、章末問題を通して基礎力の定着を図る。 ・各章終了後には、問題集(クリアー)を活用し、学習内容の再確認、応用力の向上を目指す。
	8・9	数学Ⅲ 第3章 微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数	1 微分係数と導関数 2 導関数の計算 3 いろいろな関数の導関数 4 曲線の方程式と導関数	○ ○ ○	○ ○ ○	
9	数学Ⅲ 第4章 微分法的应用 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用	1 接線の方程式 2 平均値の定理 3 関数の値の変化 4 関数のグラフ 5 方程式・不等式への応用 6 速度と加速度 7 近似式	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	評価の方法 ・授業態度 ・発表や板書などの取り組み ・課題の提出 ・小テスト・定期考査 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評価に総括する。
10	数学Ⅲ 第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分	1 不定積分とその基本性質 2 置換積分法と部分積分法 3 いろいろな関数の不定積分	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	
11	第2節 定積分	4 定積分とその基本性質 5 置換積分法と部分積分法 6 定積分のいろいろな問題 (期末考査)	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	
12	第3節 積分法的应用	7 面積 8 体積 9 道のり 10 曲線の長さ	○ ○	○ ○	○ ○	
1	数学C 第3章 複素数平面 問題演習	1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 4 複素数と図形 問題演習 〃 〃	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	
	2					
3						
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学探究Ⅱ・数学C	単位数	6
年組	3年 3組 理系	教科書(発行所)	数学探究Ⅱ(南宇和高校), 新編 数学C(数研出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	数学探究Ⅱ 関数と図形	1 方程式と不等式 2 2次関数 〃	○	○	○
5	数学C 第1章 平面上のベクトル 第2章 空間のベクトル	1 ベクトル 2 ベクトルの演算 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 5 位置ベクトル 6 ベクトルの図形への応用 7 図形のベクトルによる表示 (中間考査) 1 空間の点 2 空間のベクトル 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 5 ベクトルの図形への応用 6 座標空間における図形	○	○	○
6	数学探究Ⅱ 確率と証明	3 図形と計量 4 データの分析 1 場合の数と確率	○	○	○
7		〃 (期末考査)	○	○	○
7	数学探究Ⅱ	2 論理と集合 3 平面図形 〃	○	○	○
8・9	関数とグラフ	1 式と証明 〃 2 複素数と方程式 〃	○	○	○
9		3 図形と方程式 〃 4 三角関数 〃	○	○	○
10		5 指数関数・対数関数 〃 6 微分法・積分法 〃 〃 〃	○	○	○
11		〃 (期末考査)	○	○	○
12			○	○	○
12	数列と	1 数列 〃 〃	○	○	○
1	統計的な推測	2 統計的な推測 〃 〃 〃	○	○	○
2			○	○	○
3			○	○	○
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					
また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。					